



スポーツ文化ツーリズムアワード2017

マイスター部門 奨励賞

おごと温泉を拠点とした世界文化遺産・日本遺産を繋ぐ おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク

申請団体：びわ湖パノラマウォーク実行委員会

取組概要

- 観る世界文化遺産（比叡山延暦寺）&日本遺産（「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」）、癒す温泉（最澄によって開湯されたおごと温泉）、味わう食文化（近江牛、近江米、日本酒）をスポーツで繋ぐウォーキングイベント。
- 9月の週末2日間の開催、1日4コース計8コースと、複数コースあり。
- ウォーキング後は各旅館の温泉へ、おごと温泉9軒の旅館の宿泊者増及び周辺の観光施設のにぎわい増。
- 参加者数（2017年）：約1,200名

評価ポイント

- 他のマラソンや、ウォーキングイベントとの差別化ができています。
- ターゲット層を幅広く取れる企画である。
- 参加者が体験する、地域ならではの多様なコンテンツ、「するスポーツ」、「観る文化財」、「癒す温泉」、「味わう食文化」が体験できる。それぞれの見せ方を工夫した上で、更にそれら横のつながりをもっと分かりやすくすることで、更なる発展が期待される。



沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検

申請団体：株式会社 南都

取組概要

- 国内最大級の鍾乳洞「玉泉洞」の洞くつ探検（ケイビングツアー）で、5感を使った非日常体験で、沖縄ならではの独自性強いコンテンツ。
- 玉泉洞は、沖縄の自然、歴史、文化を伝える観光施設「おきなわワールド」にあり、県の博物館相当施設に指定されている。
- 教育旅行やMICE（チームビルディング）のアクティビティとしても提供可能で、多様性もある。
- 参加者数（2017年7月中旬～9月末日）：約3,000名

評価ポイント

- アドベンチャーツーリズムは、世界でも旅行トレンドであり、インバウンドが期待できる企画である。
- 「スポーツ面」、「文化面」をもっとしっかり創造し打ち出すことで、洞くつがある他地域との差別化や、新規性を磨いて、インバウンドへの発信手法を工夫することで更なる発展が期待される。





スポーツ文化ツーリズムアワード2017

チャレンジ部門 入賞

大阪城トライアスロン2017/NTT ASTCトライアスロンアジアカップ

申請団体：大阪城トライアスロン2017大会組織委員会

取組概要

- 大阪のシンボル「大阪城」のもとで、東外堀を泳ぎ（スイム）、大阪城公園から大阪ビジネスパークまでを自転車で駆け抜け（バイク）、公園内を走る（ラン）と、画期的なトライアスロン大会であり、アジアカップとして海外のエリート選手も多数参加する国際競技大会。
- スポーツと文化・歴史が融合した新たな取組を世界に発信し、スポーツの振興、大阪の都市魅力の向上につながっている。
- 参加者数（2017年）：約500名のボランティアスタッフが大会を支え、約65,000人の大歓声の中、国内外の選手852名が競い合った。

評価ポイント

- 今年初めての取組であったが、ユニークベニューでもある大阪城での開催で、他の大会との差別化が出来ている。
- 世界への発信によるインバウンド誘致等による経済効果も得られており、次回以降も安定的開催を期待される。

(C) Satoshi TAKASAKI/JTU



日本初！雪上ゴルフ体験 ウィンターゴルフ IN 北海道

申請団体：株式会社 ゴルフダイジェスト・オンライン

取組概要

- 冬季は雪解けまでクローズするしかなかった北海道ゴルフ場を利用した新たな取組で、2016年北海道美瑛市のゴルフ場で国内初開催。
- 美瑛市、地元企業、地域住民の協力のもと会場準備、雪上アクティビティ実施、地元野菜を使った料理などゴルフ以外にも参加者に楽しんでいただき、地域活性化にも繋がるよう取組を行っている。
- 2018年実施時には、アトラクションの追加を行うなど、旅行会社経由でのツアーパッケージを作成・販売を計画し、道内外問わず交流人口（来場者）の増加を見込む。

評価ポイント

- アジア圏内でウィンタースポーツが出来る国は少ない為、今後発展の可能性はある。
- 今後は、地域食との連携を図る事に加え、「文化面」での日本らしさ、地域らしさを見出すことで、更なる発展が期待される。

(C) 2000-2017 Golf Digest Online Inc. All rights reserved.



小豆島一周サイクリング&無人島BBQ

申請団体：香川県土庄町

取組概要

- 土庄町の地域おこし協力隊が企画した新しいスタイルのサイクリングイベント。小豆島を自転車一周する「豆（まめ）イチ」をしながら、島の自然や瀬戸内の景観を楽しんでもらい、地元の食材をふだんに振る舞うなど、「サイクリングの島」としての定着を目指す。
- 参加者数（2017年）：17名。2017年度から香川県が主体となってサイクリング誘客促進に取組み、モデルルートとして、「小豆島一周ルート」が選定され、このイベントを今後も継続して開催することで、新たな観光資源を生み出し、誘客促進、地場産業の発展につなげていく。

評価ポイント

- 小豆島は、近年、海外からの観光客も急速に増え、話題になっており、今後、食文化以外でも魅力を磨きながら、Instagram等のSNSを利用した発信に力を注ぐことで、インバウンドをより多く呼び込める可能性を大いに秘めているということで期待される。

